

はじめに

◇ 変わる日本近世史（江戸時代）像と熊本藩の研究

“武士による圧制政治” “年貢搾取による貧しい農民像” などの通説的理解が大きく見なおし

➡かつての熊本藩の評価；「後進的」「保守的」、近年の評価；「近代社会形成の起点」

◇ 日本近世史における熊本藩政の位置

国持大名としての自立性と影響力、支配の広域性と永続性、近代日本の地方行政・自治制度を準備

➡永青文庫藩政史料は、日本近世・近代史を再考する上で極めて重要な意味をもつ史料群

◇ 稀有な藩政史料の存在から見えてくるもの

①高度に発達した行政機構、②熊本藩を基点とした近世政治社会史、③新たな明治維新像の構築

1. 高度に発達した行政機構

(1) 熊本藩宝暦改革の画期性

18世紀半ば宝暦改革による藩庁部局制の整備、藩校時習館の創設、近代的な刑法改革など

➡「諸国より法を取りに来る」対象であった熊本藩

(2) 藩政改革後の行政機構と役人人事

藩庁（郡方）から村に至る重層的な地方行政系列の整備、地域側の起案に基づく政策形成の進展

藩役職における年功序列的な任用・昇進規定の整備、惣庄屋以下の村役人層にも詳細な規定（「在中」）

➡地域社会を包括した藩政の展開、政策形成および役人人事における恣意性の否定

2. 熊本藩を基点とした近世政治社会史

(1) 宝暦改革から「島原大変、肥後迷惑」へ

「明君」重賢と諸藩による改革の模倣（水戸藩など）→熊本藩への高い同時代的評価

老中松平定信から藩主斉茲（1755-1835）への20万両上納要求、重賢「御忠勤」を強調（「御用金一件」）

上納金の受諾と1792年雲仙岳噴火および大津波の発生、幕府による上納金の一部免除へ

➡宝暦改革の「成功」がもたらした上納金問題／津波被害への対応を示す藩政史料も多く存在

(2) 知られざる細川家「御血脈」の危機

11代将軍徳川家斉（1787-1837）の子女55人、有力大名との縁組みは幕府政治にも大きく影響

藩主斉樹（1797-1826）の急病、正室の父一橋治済は家斉の子を養子に迎えるよう江戸留守居に指示

「幽斎様以来御血脈」の危機に藩内は激しく動揺、藩士杉浦仁一郎の奔走で徳川家の養子は回避

最終的に、宇土支藩の細川斉護（1804-1860）が養子入りすることに

➡「大国」ゆえに江戸幕府も熊本藩の動向を常に注視／幕末政局で期待された熊本藩の政治的発言

3. 熊本藩の地域行政制度と新たな明治維新像

(1) 明治維新の世界史的意義

一般的な明治維新イメージ；「攘夷」「倒幕」「西洋化」／熊本藩は“維新のバスに乗り遅れた”存在
明治維新による領主制の徹底的な解体と急速な近代化→恰好の素材となる熊本藩領の地域社会史

(2) 手永による広域的自治活動の展開

戦国期以来の地域的結合としての「手永」領域、近世初期から藩の地域行政の中核として機能
宝暦改革による転勤惣庄屋制の導入→行政能力に長けた百姓は藩領規模で地域行政に従事
1803年請免制の導入→手永は自主財源（会所官錢）と行政吏をもつ自治的地域行政機構として発展

(3) 手永制の充実と近代地域社会への継承

常勤行政吏としての手永役人／1840年代の会所官錢の総額は約49万石に
明治維新後、旧手永役人は区町村吏や地方議員へ／旧手永（郷）領域は住民自治の単位として継承
郷備金（旧会所官錢）は、近代地域社会の社会資本整備（鉄道・病院・学校建設等）に活用
→明治時代、「地方自治」の原型として賞賛・回顧された熊本藩政と手永制の歴史

おわりに

◇ 歴史と史資料を未来へつなぐ営為

廃藩置県後、藩政史料の保全に奔走した旧藩士／明治8年（1875）「御入国御行列之図」作成の意義
→永青文庫研究センターおよび熊本地震後の「文化財レスキュー」活動も、先人の意思を継承するもの

◇ 永青文庫藩政史料から始まる新しい日本史研究

日本近世史・近代史研究の更なる深化のため、今後も国内外との多くの共同（比較）研究を予定
「熊本から変える、変わる日本史」→専門研究の深化に基づく新たな地域連携・社会貢献事業へ

参考文献

- ・ 足立啓二「18～19世紀日中社会編成の構造比較」（同『明清中国の経済構造』汲古書院、2012年）
- ・ 稲葉継陽・今村直樹編『日本近世の領国地域社会』吉川弘文館、2015年
- ・ 稲葉継陽「熊本大学寄託永青文庫細川家史資料の構成と歴史的位罫」（森正人・稲葉継陽編『細川家の歴史資料と書籍』吉川弘文館、2013年）
- ・ 稲葉継陽「古文書から読み解く震災」（岩岡中正・高峰武編『熊本地震2016の記憶』弦書房、2017年）
- ・ 今村直樹「近代移行期の地域資産をめぐる官と民」（『史林』91-6、2008年）
- ・ 鎌田浩『熊本藩の法と政治』創文社、1998年
- ・ 久留島浩編『描かれた行列』東京大学出版会、2015年
- ・ 高槻泰郎「金納御手伝普請にみる幕藩関係」（藤田覚編『幕藩制国家の政治構造』吉川弘文館、2016年）
- ・ 中村尚史『日本鉄道業の形成』日本経済評論社、1998年
- ・ 三澤純「維新変革期における民政と民衆」（明治維新史学会編『明治維新史研究の今を問う』有志舎、2011年）
- ・ 森田誠一『近世における在町の展開と藩政』山川出版社、1982年
- ・ 吉村豊雄『日本近世の行政と地域社会』校倉書房、2013年
- ・ 吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編『熊本藩の地域社会と行政』思文閣出版、2009年